

大杉谷登山歩道合同パトロール

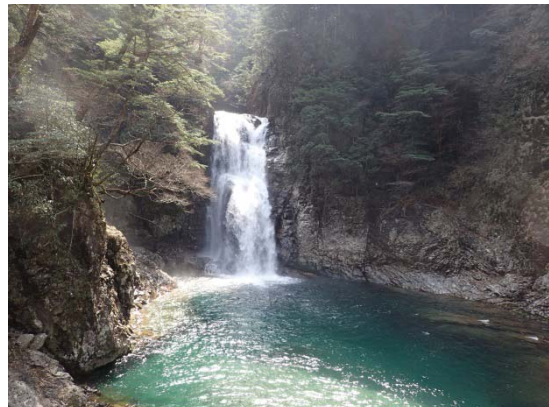
「関西の屋久島」と呼ばれる程、森林や溪間の美しさに定評がある大杉谷の開山（4月21日）に向けた登山道の整備を4月13、14日の2日間で実施しました。大杉谷は景観に人気がある一方で、過去には登山道からの転落等による死者や負傷者も多く出ている危険な谷の側面も持っています。そのため、事故による被害を減らすために開山前の登山道の合同整備を毎年行っています。

メンバーは登山センター及び地域おこし協力隊を中心に環境省・三重県・大台町・森林管理署といった管理者的機関から、防災航空隊・消防署・山岳救助隊・警察署といった救助を行う機関、さらに山岳連盟・自然学校・三重大学の准教授の総勢21名の参加となりました。具体的には、吊橋のアンカーの腐食防止の為に掃除、落石等の除去、小段の設置や手すり近くの枝葉の切除など登山者の安全通行を確保するための整備を行いました。また、いざというときに航空隊のヘリにより被災者を救助する場所の新たな検討や、機関間での情報交換といったソフト面でも大いに実りある内容となりました。

今回、登山道を歩いて実感した美しい景観を全国に発信しながら、「美しい花には棘がある」ではないですが、美しい景観を見るためには危険があるということも同様に発信していかなければならないことも実感しました。多くの人が大杉谷を訪れ、安全に登山することを祈念して大杉谷を後にしました。



登山道整備の様子



堂倉の滝